

令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

越前市神山小学校

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

地域	・自治振興会長 ・区長会代表 ・主任児童委員 ・老人会長 ・学校ボランティア代表 ・地産地消の会長 ・遠別町との交流を進める会長 ・認定こども園長 ・地域コーディネーター2名 (元公民館長、地産地消の会長)
10名	
保護者	・PTA会長
1名	
学校	・校長・教頭・教務主任
3名	

(2) 協議会の内容

第1回協議会（6月19日）

- ①本会の趣旨説明と活動方針
- ②スクールプラン等の説明等
- ③家庭・地域・学校の連携について

第2回協議会（12月10日）

- ①家庭・地域・学校の現状と意見交換
- ②学校評価の進め方

第3回協議会（3月4日）

- ①学校評価結果の分析と考察
- ②次年度への提言

(3) 協議会における成果と課題

本年度、協議会の提案を受け、地域の様々な団体との活動を共にする機会が増え、地域とのつながりが一層深まった。地産地消の会との協力では、2年生が野菜の収穫を共に行い、地域の方々と一緒に収穫を喜んだ。また、6年生では、販売所において、子供たちが制作した苔玉を販売して、地域の方々から喜ばれた。敬老会では自治振興会と協力して、5年生が敬老会に参加し、地域のお年寄りに子供たちが栽培した米で作った紅白餅を配布した。

課題として、見守り活動を行っているボランティアの方々の高齢化と、下校時の見守り活動の活性化が今後の課題としてあがった。また、地域と小学校だけでなく、こども園、中学校との連携を今後更に進めていく必要性があげられた。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

神山地区の豊かな自然や歴史・文化・伝統を、地域の人と触れ合う中で学び合う。また、普段できないような体験を行ったり、地域の課題を見つけ、その解決方法を考えたりすることで神山地区に対する誇りや愛情を育てる。

(2) 活動の実際

①「伝統産業を学ぼう」（6学年）

神山地区の伝統産業である「瓦」製造業について学んだ。この学習中で、地域の工場を見学し、伝統のある「瓦」の復活、新しい「瓦」や、タイル等の製造について学び、これからの「瓦」産業の可能性について理解を深めた。また、本年度は、地域の指導員からの提案で、できるだけ薄手の瓦に挑戦すること、釉薬を使用した「瓦花器」と素焼きの「瓦花器」を製作した。その中で、見た目の美しさだけでなく、「瓦」の強



度についても理解できるように取り組んだ。

また、「苔玉」作りでは、地域の指導員のもと、土作りから完成まで子供たち一人一人が取り組み、見事な「苔玉」を制作した。「苔玉」は、校内や地域の施設に展示した。更に、地域の団体である地産地消の会の協力の下、販売所で、「瓦花器」と「苔玉」の販売を行い、「瓦花器」の良さを広めた。

②稲作体験学習（５年生）

地域の農業法人組合の方々の指導で稲作に取り組んだ。本年度は、より身近に稲の生育を観察するために学校田の稲作だけでなく、バケツ稲にも取り組んだ。この体験学習では、種籾の播種から刈り取りまでの栽培過程を学習し、自然の力や自然の恵みの大切さを実感していた。また、収穫した米を使った餅を、地区の敬老会において、お年寄りに配布し、お年寄りとの交流を深めた。



③むかしあそび（１年生）

子供たちに、日本の昔から伝わる「むかしあそび」を体験し、日本文化に親しんでもらうために地域の老人会に協力いただき、お年寄りの方と一緒に楽しんだ。コマ回しやけんだま、あやとりなどの昔遊びをグループ毎にお年寄りといっしょに楽しむなかで、外国人児童には、遊びの仕方を日本語の堪能な外国籍の保護者に説明していただきながら、お年寄りといっしょに楽しいひとときを過ごした。お年寄りの「ありがとね」「楽しかったよ」の言葉に児童は大変感動し、深いつながりができた。



（３）地域コーディネーターの活動概要

神山地区は、三世代家庭が多いが、近年新興住宅地も増え、地域の人々との繋がりが徐々に希薄になってきている。そこで、地域の人々と子供たちの繋がりを強くしていくために、地域コーディネーターの存在は大きい。今回の体験は、地域のボランティアの方々と子供たちをつなげたり、子供たちの考えをまとめたりするのに良い手助けとなった。特に、地産地消の会との協力した活動や、「瓦」工場の訪問では、連絡調整や指導に関して、教職員の大きな負担軽減となった。

（４）特に工夫した事項

本年度は、地域の団体との協力を中心に体験活動を行った。特に、地産地消の会、「瓦」工場の訪問、成果の報告に取り組んだ。

（５）成果と課題

以前から本校で行われていた体験活動が多くあるが、地域との方々と顔を合わせた活動により、更に連携を深めることができ、充実した活動を行うことができた。学校評価においても、神山地区に愛着を感じている児童が94%であり、保護者からも地域との連携に対し高い評価を得ている。今後の課題として、総合的な学習の中だけでなく、各教科との関連を意識したカリキュラムへの位置づけをしっかりと行い、教科の内容に加味した充実した活動にしたい。